

けが・破損防ぐ

ウエイト東海 販売を本格化

ウエイト東海（片山和洋社長、愛知県半田市）は倉庫内の積み荷の落下によるけがや破損を防ぐ、転落防止ゲート付きの収納ラック「セイフテイー・ゲート・ボックス（S・G・B）」の販売を本格化させる。

8、9の両日、パシフィコ横浜（横浜市西区）で開催される「耐震対策技術展」にも初めて出展し、倉庫業者や問屋、製造業などへ売り込む。



電源が不要

電源が不要で、積み荷をフォークリフトでパレットごとラックに収納すると、底板に重量が掛かり、てこの原理でゲートが自動で閉まる。ゲートの隙間からフォークリフトを差し込み、積み荷を上げると開く仕組みだ。標準サイズは、高さ2・2段、奥行き1・45段、横幅1・6段。

片山社長は「熊本地震で棚から製品が散乱しているのを見て、本当に危ないと思った。日本の企業は危機管理が後回しになっている気がするの

で、S・G・Bを通して、いざという時の備えを呼び掛けていきたい」と話している。（奥出和彦）